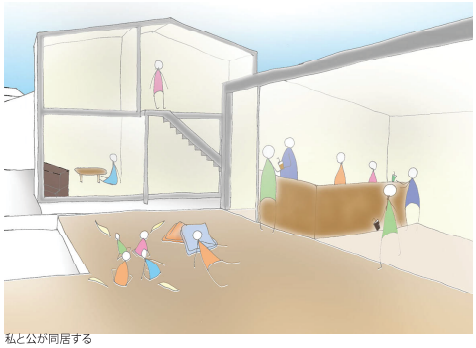
きって、つなぐ街。

コンセプト

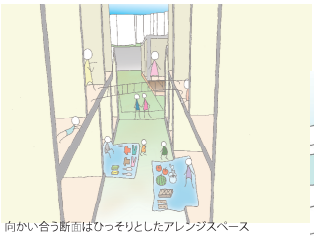
「建物のいのち」が死ぬとき、それは人に使われなくなったときである。
使われなくなった建物は取り壊し、その土地にまた新たな建物が作られる。そして、その新たに作られた建物も役目を終えれば取り壊され別の建物が作られる繰り返しである。
しかし、取り壊される建物にも物語があり人々の想いがある。建物と生きてきた人はどう思うだろうか。ぽかりと空いた空き地に元々あった建物を思い出せる人はどのくらいいるのだろうか。その建物を取り壊すことがはたして正しい「建築のいのち」のあり方なのだろうか。
今回の提案は既存の建物がその命を終えたとき、建物の一部を切り取ることで過去の片鱗を残しつつ、形を変え、用途を変え新たな使い手を見つけ使われ続ける建築である。
人口減少により使用面積が少なくなり、その分建物を切り取る。その切り取られた土地を公的な使用目的とし「建築のいのち」を未来へ継承していく。大人たちは憩い、子供たちは遊ぶ場所として人々に愛される空間を生み出すことができるだろう。
切ることでいのちをつなぎ、街をつなぐ。



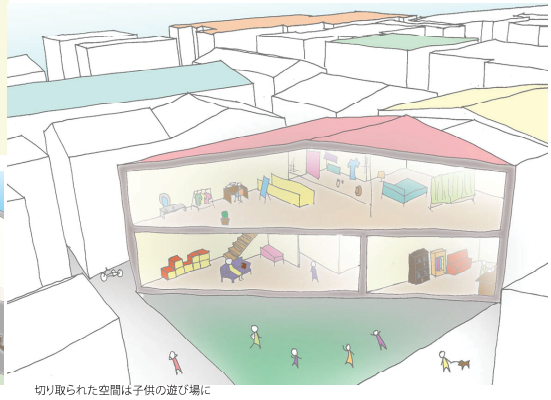
私と公が同居する

生活感が外にあふれだす

広いデッキは教室にもなる

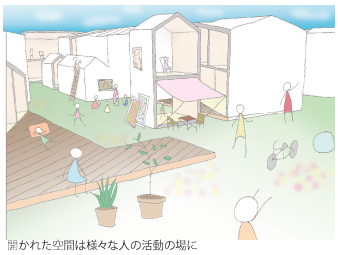


向かい合う断面はひっそりとしたアレンジスペース

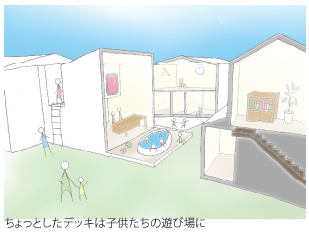


切り取られた空間は子供の遊び場に

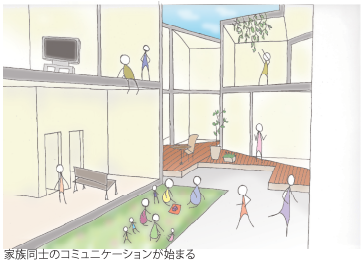
近所の人が集まる憩いのカフェ



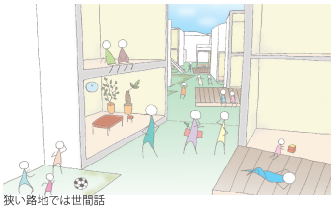
開かれた空間は様々な人の活動の場に



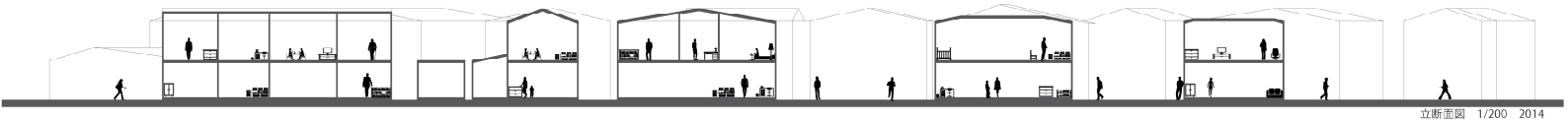
ちょっとしたデッキは子供たちの遊び場に



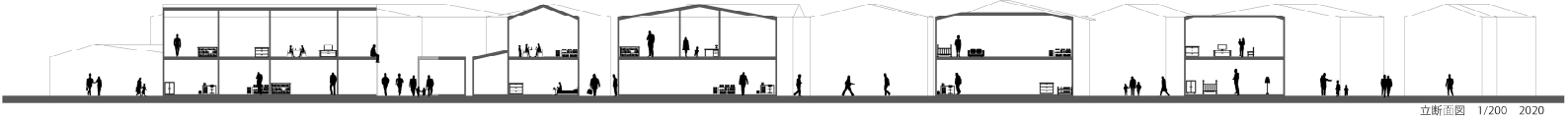
家族同士のコミュニケーションが始まる



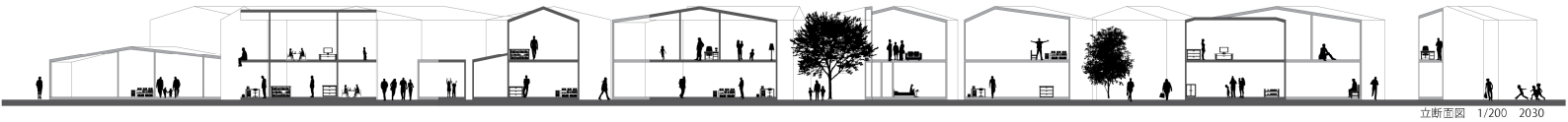
狭い路地では世間話



立断面図　1/200　2014



立断面図　1/200　2020



立断面図　1/200　2030

立断面図　1/200　2050